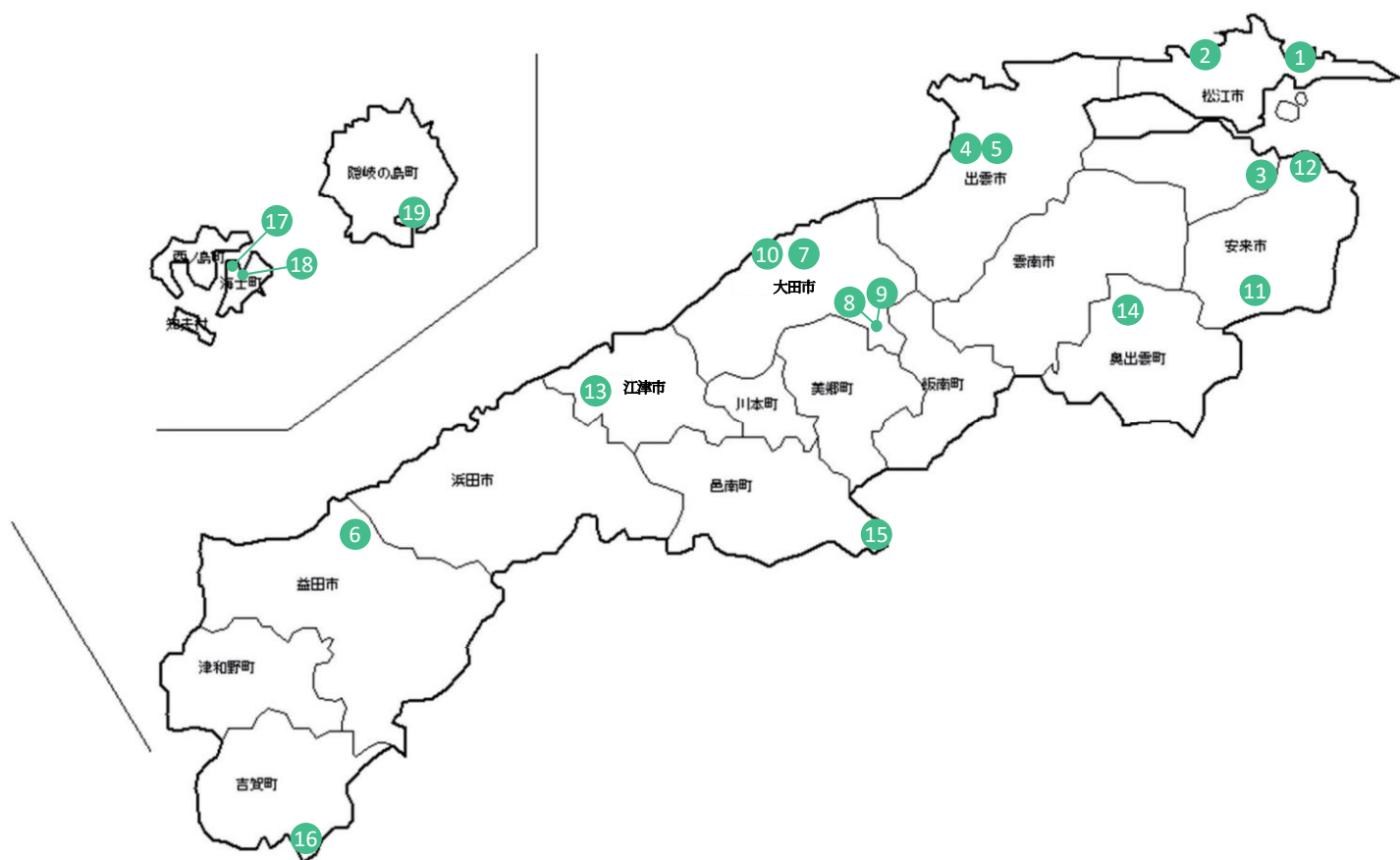


島根県

ディスカバー農山漁村 むらの宝」第12回選定) 応募団体等 一覧 島根県)

No	選定 団体	部門	市町村	団体名/氏名	該当する取組		
①		個人	松江市	青戸 裕司 (ゲストハウス かたゑ庵)	農泊	移住 定住	多様な分野との連携
②	地方 奨励賞	団体	松江市	株式会社Mitsu Fisherman's Factory	6次産業化	移住 定住	関係人口の創出
③		団体	松江市	畑ほし柿生産組合	伝統の継承	教育機関との連携	関係人口の創出
④		団体	出雲市	株式会社オリーブ園 夢創庭	農業	6次産業化	荒廃農地対策
⑤		団体	出雲市	高松地区農地保全協議会	荒廃農地対策	教育機関との連携	食育 教育
⑥		団体	益田市	田ノ原牧場	6次産業化	地産地消	
⑦		団体	大田市	石見銀山アスパラ生産組合	農業	スマート農林水産業	企業との連携
⑧		団体	大田市	株式会社さんべ開発公社	企業との連携	地産地消	関係人口の創出
⑨		団体	大田市	志学まちづくり協議会 お母さんのふるさとキッチン	農村文化体験	地産地消	女性の活躍
⑩		団体	大田市	宅野地域農地保全会	農業	荒廃農地対策	教育機関との連携
⑪		団体	安来市	シバザクラの会	棚田保全	移住 定住	関係人口の創出
⑫		個人	安来市	原田 吉郎	農業	伝統の継承	食育 教育
⑬		団体	江津市	跡市環境保全組合	農村文化体験	その他	
⑭		団体	奥出雲町	有限会社トム	農業	農福連携	高齢者の活躍
⑮		団体	邑南町	上田平佐棚田保全会	農業	棚田保全	関係人口の創出
⑯		団体	吉賀町	農事組合法人立河内絆	農業		
⑰		団体	海士町	一般社団法人海士町観光協会 島食の寺子屋	地産地消	食育 教育	学生 若者の活躍
⑱		団体	海士町	海士町学校給食共同調理場	企業との連携	地産地消	食育 教育
⑲		団体	隠岐の島町	隠岐ふるさと直売所協同組合	6次産業化	地産地消	移住 定住

応募団体等所在市町村図（島根県）



あおと ゆうじ かん
青戸 裕司 (ゲストハウス かたゑ庵)
ありのままの漁村を歓交地に！

概要

- ジオパークを生かした環境負荷のないアクティビティの提供や築100年の古民家を改装したゲストハウスでの宿泊、過去には、地域住民の自宅で夕食を提供する「民食」も実施。
- 海を生かしたカヤック体験、陸を生かしたタンDEM自転車レンタルの他、インバウンド向きに近所の寺での禅体験やベジ寿司ワークショップ、竹藪での竹のワークショップ等を開催。
- ジオガイドの会、(一社)松江観光協会、島根大学、県境を越えて(一社)境港観光協会等と連携した取組。



6年間の取組の足跡



特注品の3人乗りカヤック



カヤック撮影、自転車レンタル等のオプション

〒690-1315 松江市美保関町片江396
0852-55-8600 info@kataean.com

関連情報はこちら ▶



地方
奨励賞

かぶしきがいしゃ みつ ふいつしやーマんず ふあくとりー
株式会社 Mitsu Fisherman's Factory

漁村の未来、獲る創る売る新しい漁師像へ

概要

- 漁業者の高齢化や収入不安など、地域漁村の衰退を危惧した小笹代表が、他業種から水産業未経験者をスカウトし、地元住民と共に漁業の立て直しを図るため、令和4年に事業を開始。
- 地域の基幹産業との協業によって、「獲る・創る・売る」を合言葉に、新しい漁師像を目指した働き方“漁師2.0”を確立。
- 地域連携プロジェクトやイベントへの参加、地域資源のブランド化の他に、地元小学生に対する漁業体験会の開催等、地域の活性化や食育につながる新たな価値を創出。



小笹代表（中央）と仲間たち



船上活締めの様子



さばの塩辛（左側）をはじめとする加工品

〒690-0411 松江市鹿島町御津402
0852-61-9193 mff0303@hotmail.com

関連情報はこちら ▶



はた がきせいさんくみあい
畑ほし柿生産組合
 伝統をつなぎ 人をつなぐ 天空のほし柿の里

概要

- 昭和30年に「畑乾柿（ほしがき）生産組合」を結成し、共同出荷体制の構築、販路開拓等に取り組む。
- ほし柿づくりの歴史や取組に関する出前授業の開催（小学校）、11月には生産現場の見学やほし柿づくりの体験を実施（小、中学校）。
- 平成21年からは「柿の木オーナー制度」を開始。
- シーズン以外の「柿小屋」は、「柿小屋コンサート」、「1日限定レストラン」、「柿小屋ナイトミュージアム」等として活用。



柿小屋が橙色に染まる集落の風景



小学3年生を対象とした出前授業



1日限定の柿小屋レストラン

〒699-0103 松江市東出雲町上意東816
 0852-52-5824

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいはしゃ えん むそうてい
株式会社オリーブ園・夢創庭
 幸せの雫 出雲産オリーブオイル

概要

- 高齢化・後継者不足により、ぶどうハウスの廃園や休耕園が増加していたことから、平成26年に廃園等を有効活用し、地域の活性化を目的にオリーブの栽培を開始。
- 収穫後、自社工場で24時間以内に搾油した良質なエキストラバージンオリーブオイルを商品化。
- 令和4年に出雲市の推奨商品「おいしい出雲」に認定登録され特産品として販売。

成果

- 平成26年に植栽した92本から始め、廃園・休耕園を再活用し、令和6年時点で栽培面積を4.5ha、2,100本に拡大。
- 収穫量は令和2年の300kgから令和5年には2,400kgに拡大。
- 年間を通じて曇りや雨が多い中、島根県におけるオリーブ栽培は、県内外の関心も高く、視察の問い合わせがあるなど地域の活性化に寄与。



オリーブ園の様子



収穫前のオリーブの実



オリーブの搾油とオリーブオイル商品

〒699-0822 出雲市神西沖町1687-11
 0853-43-1218 itoga@itoga1218.jp

関連情報はこちら ▶



たかまつちくのうちほぜんきょうぎかい
高松地区農地保全協議会
 こどもたちとの連携～農地を守る高松の宝～

概 要

- 令和2年に農林水産省の実施事業である多面的機能支払交付金制度を活用する活動組織として設立し、その後、合併・広域化を進め、町内会、小学校、幼稚園等の団体を含む令和7年度構成員が681（人・団体）に達し、そのうち7割が非農家。
- 農用地・水路等の保全、地域美化活動や田んぼダムに取り組む。
- 高校生との水路補修や小学校・幼稚園と連携した農業体験の場を提供。

成 果

- 水路補修は、高松地区の老朽化している農業施設（用水路等）の現状を高校生に知ってもらうとともに、共同作業による地域住民との関係が深化。
- 毎年行う未耕作農地での農業体験は、農地が地域の資源であることを再認識する場となっており、小学生や幼稚園児の食育にも貢献。



高校生との水路補修 側壁の補修



小学生との田植え体験



幼稚園児との田植え体験

〒690-0876 松江市黒田町432-1
 0852-32-4141 miyake@shimanedoren.or.jp

たのはらぼくじょう
田ノ原牧場

牛と人の共生が創り出す 日本の原風景が産み出す

概 要

- 夫婦で山地酪農を学び、平成29年に妻の地元にI、Uターン。耕作放棄地や山を開拓し、放牧地、採草地に再生。ジャージー牛2頭の放牧から始め、現在は夫婦それぞれ、兼業で働きながら和牛2頭、ジャージー牛8頭を飼育。
- 令和6年には乳製品製造業の許可を取得し、牛乳とチーズの製造、販売。
- 地元の保育園、小学生、高校生、林業関係団体、社会人等、年間50名前後の見学者を受け入れ、地域の魅力を発信。

成 果

- 約5haの耕作放棄地と約1haの竹林を放牧地に再生。放牧牛が笹やタケノコを食べることにより、竹林の拡大防止に繋がる。
- 再生力の強い匍匐系の多年草を放牧地に定着させることで、里山の景観の維持管理を省力化。
- 牛乳の他にチーズ3種（モッツアレラ、フロマージュブラン、カチョカヴァロ）を製造、販売。
- 海外産の飼料に依存しない飼養体制を構築。



夕方の放牧地で草を食む牛たち



牧場見学を行った際の様子



山の中で開催したオカリナ演奏会の様子

〒699-3674 益田市大草町826-1
 0856-23-4422 mokke1989@yahoo.co.jp

関連情報はこちら ▶



いわみぎんざん せいさんくみあい 石見銀山アスパラガス生産組合

石見銀山アスパラガスをバトンに！つなげ！大田市の未来へ！

概要

- 大田市農業の担い手不足が顕在化していた折、平成16年に生産組合を設立。先進地視察先の香川県でアスパラガス高畝栽培に出会い、身体的負担の軽減、所得の安定確保が実現できる方法と考え、令和2年度からハウス建設及び植栽をスタートさせた。



大田市長と新規就農者と語る会



アスパラガス×バスツアー



大田市内スタンプラリー

成果

- 農業者の高齢化を克服するため、高畝栽培を導入することにより、従来の露地栽培に比べて作業負担の軽減と効率的な生産が実現できた。関係4者（農業者、JA、市、県）が連携し組織的に取り組んだ結果、アスパラガス専用選果場の建設が実現し、品質の均一化と作業効率の向上が図られた。
- 令和6年度に大田市の魅力発信のため、バスツアーを企画し、全国からの参加者が収穫体験、有名シェフによる本格料理を楽しんだ。同7年度には、「おおだ味わいラリー」を企画し、市内飲食店22店舗の協力の下、アスパラガスを使用した料理を提供し、市民へその魅力を発信した。

〒694-0064 大田市大田町大田イ651-1

0854-84-9058 r-moriyama.gin@ja-shimane.gr.jp

関連情報はこちら ▶



かぶしきがいしゃ かいほうこうしゃ 株式会社さんべ開発公社

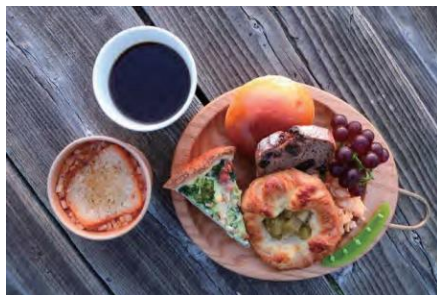
星空と日の出、山頂に向かう暗闇の空中散歩

概要

- 平成28年から始めた「天空の朝ごはん」は、観光リフトを活用し、標高854mの三瓶山山頂で日の出を鑑賞。地元9事業者が連携し、地元食材によるコラボ朝食を提供し、人気を集める。
- 令和5年からは夜のイベント「天空の星降るリフト」も実施し、暗闇体験、山頂での天体解説、生演奏など静寂と星空に包まれる幻想的な体験を提供。
- 三瓶山のわさび田見学・わさび飯ランチ、石見神楽団との交流、GI認証を受けた在来種の三瓶そば畑や田園風景を巡るE-BIKEガイドツアーなど、新しい企画を次々と始動。



山頂でのこだわりの朝食で日の出鑑賞



地元食材にこだわった朝食



光や音がほとんどない天体観測会

成果

- 「天空の朝ごはん」では、地元飲食店スタッフの説明により地域食材の良さが伝わり、参加者との一体感と高い満足度を生み出している。
- 「天空の星降るリフト」では、新たな観光価値を創出する他に例のないイベントであり、国内初の取組として中小機構からも高い評価を得ている。
- イベント申込人数や宿泊客数の増加を通じて地域経済に貢献するとともに、「さんべツアーズ」として旅行業務を開始し、地域観光の担い手としての体制整備を進めている。

〒694-0222 大田市三瓶町志学2072-1

0854-83-2011 nagao@sanbe-tours.com

関連情報はこちら ▶



志学まちづくり協議会 お母さんのふるさとキッチン

そばがつなぐ、人とまちと未来。

概要

- 地域の未来を真剣に考えようと「志学未来会議」を立ち上げ、小学生から高齢者まで多様な世代が集まり、地域の10年後を見据えたビジョンをもとに、志学地域づくり計画を策定。
- その一環として、在来種である「三瓶そば」のGI認証取得に着手し、そば文化の掘り起こしとそば打ち体験の商品化を通して地元女性の活躍の場を広げ、地域内外の人々をつなぐ新たな交流の場づくりを進めている。



志学未来会議の様子



三瓶そばゼミナールの開催



様々な体験会・外国人への体験教室の開催

〒694-0222 大田市三瓶町志学2065-2
0854-83-2167 mc-shigaku@city.oda.lg.jp

関連情報はこちら ▶



宅野地域農地保全会

地域の農地を未来へつなぐ

概要

- 平成26年、同じ悩みを抱える農家が「次世代へ農業をつなぐ」という共通の思いから農地保全会を設立。個人で実施していた「小学生へのお米の授業」が地域の共感を呼び、農地保全会の取組へと発展した。
- 耕作放棄地を活用し、地域の非農家の女性や小学生を対象にしたワークショップ・授業を通じて、地域農業の継承と新しい生産品種のブランド化を図っている。

成果

- 農業に触れる機会がなかった人達が、食や自然に関心を持つとともに、地域のコミュニティ形成に貢献している。
- 米づくりを体験した子ども達が地域の自然や伝統文化への理解を深めている。
- 地域の伝統芸能「子ども神楽」から着想を得て「宅野神楽米（たののかぐらまい）」を開発。ブランド化を進めるとともに、地元高校生がパッケージを作成し、道の駅で販売を開始した。



畑のワークショップ



小学校のお米の学校



宅野神楽米のパッケージ

〒699-2302 大田市仁摩町宅野876
0854-88-3181

かい シバザクラの会

『今日もえーひだ』～シバザクラの里永田～

概要

- 棚田畦畔へのシバザクラ植栽活動により、草刈作業の省力化と農村景観を活かした都市間交流の輪を広域に展開し、更なる地域の活性化を図ることを目的にシバザクラの会を設立。
- 農家、非農家、縁故者等50人を構成員とし、令和6年度までにシバザクラ10万本、花桃500本を水田畦畔等160aに植栽。
- 春の「猿隠高原シバザクラ祭り」は、SNS等で積極的に情報発信を行い、色鮮やかなシバザクラの花絨毯と地元の味のおもてなしで、県内外から約5,000人の来場者が訪れる。



集落を彩るシバザクラの花絨毯



みんな笑顔の猿隠高原シバザクラ祭り



シバザクラのライトアップ

〒692-0733 安来市広瀬町東比田1041
0854-34-0336 a-sengoku@dojyokko.ne.jp

関連情報はこちら ▶



はらだ よしろう 原田 吉郎

地域の誇りを活力へ 次世代へつなぐ亀治米伝承田！

概要

- 亀治米は、安来市の偉人「広田亀治」が150年前に育種開発し、昭和初期まで西日本一帯で栽培され、台湾の蓬莱米のルーツにもなったが、他品種の普及によって姿を消した。
- 住民による地域づくりの有志グループ内の3名が7gの種もみを手入れし栽培を開始。そのうち荒島小学校の伝承田（2a）の管理を令和3年に継承し、地域の歴史的資源の保存活動を展開。
- ミニ育苗キットを見童に配布し、家族とともに苗づくりを行う仕組みを作ったり、他の生産者等との交流を進めている。



亀治米の田植え作業



登熟期を迎えた亀治米



亀治米を使用したクラフトビール「荒島」

成果

- 亀治米の作付面積は、2.5aから37.5aに拡大。
- 伝承田での活動には5年間で延べ約140人が参加し、令和6年の収穫量は、令和3年の1.2倍（403kg/10a相当）に増加。
- 令和6年から地元醸造事業者と連携し、亀治米を使用したクラフトビールを共同開発し、180リットルを販売。
- 地域のまちづくりメンバー、児童の家族等に地域連携の輪が拡大。

〒692-0003 安来市西赤江町山根567
090-7132-2374

あといちかんきょうほぜんくみあい
跡市環境保全組合
 伝えるまち、関わる若者、つながる未来

概 要

- 地域資源であり町のシンボルでもある旧跡市小学校の利活用を「HIGH-幸」プロジェクトと銘打ち、少子高齢化により管理が難しくなった地域環境を、住民・学生・外部人材が協働する場とした。
- 伝統文化の継承や耕作放棄地の再生、資源循環の仕組みづくりなど、地域の環境保全に取り組み次世代へつなぐ活動を展開。



「跡市ビジョン」の検討会



伝統文化「花田植え」



「跡市AITABI」の活動で作成した竹灯籠

〒695-0152 江津市跡市町625-1
 0855-56-2107 atoichimatidukuri@gmail.com

関連情報はこちら ▶



ゆうげんがいしゃ
有限会社トム

田舎だからできないではなく、田舎だからできること

概 要

- 平成4年に設立した法人で、社員2人、パート2名、バイト2名、計6名で構成。
- 島根県の山奥にて、ドライエディブルフラワー（食べられる押し花）を製造し、国内、海外の有名なパティスリーや高級ホテルなどに販売して、お菓子や料理などに使用されている。
- 地域の30～80代（70代が多い）の女性に押し花作成を委託し、高齢女性の雇用の場としている。
- B型事業所に押し花作成を依頼。



自社開発の押し花機により押し花に加工



ドライエディブルフラワーの四葉のクローバー



ドライエディブルフラワーを使用したゼリークリームソーダ

〒699-1511 仁多郡奥出雲町三成663-1
 0854-54-0577 yasawa@tom-ltd.com

関連情報はこちら ▶



うえだひらさたなだほぞんかい

上田平佐棚田保存会

棚田から広がる大きな和と輪

概要

- 棚田を地域資源として活かすため、平成11年1月に上田平佐棚田保存会を立ち上げ、農地保全と都市と農村の交流による関係人口の創出、地域の営農意欲の維持を目的として棚田オーナー制度をスタートし、26年間継続中。
- ポリシーは、おもてなしをしない。スタッフとオーナーが協力し、田植えや稲刈り、収穫祭等（年4回）の体験交流行事を実施。

成果

- 平成11年に8組9区画、9aの棚田オーナーからスタートし、令和7年度には30組33区画、33aに拡大。
- 棚田オーナーのほとんどが広島在住の方で、体験交流を通じて県外に人の輪が拡大中。
- 棚田オーナーには、収穫祭で玄米を配り地元のお米を宣伝。地元のお米を「上田平佐棚田米」として販売し農業所得が向上。



田植えの様子



稲刈りの様子



昼食交流会の様子

〒696-0601 邑智郡邑南町上田2621番地1
090-7775-1982 tanada_year@yahoo.co.jp

のうじくみあいほうじん たちごうちきずな

農事組合法人 立河内絆

深めよう絆 繋げよう未来へ

概要

- 高齢化していく地域の将来を考えほ場整備を決断し、平成30年に法人を立ち上げ（現在の組合員数は26戸）、清流高津川上流に位置することを踏まえ、除草剤の削減を目的にアイガモ農法に取り組む。
- 田植えの10日後、10aあたり10羽のアイガモのヒナを放鳥。
- 令和2年度に有機JASと島根県のGAP（生産工程管理基準）認証制度の「美味しまね」を取得、令和4年度にはより高い水準の「美味しまねゴールド」を取得。

成果

- アイガモ農法の面積は、地域の協力により平成30年度の3.6haから令和6年度には約2.4倍の8.8haに増加し、令和7年度には全ほ場で有機JAS取得。
- 収穫された有機JAS米は、町内の学校給食に使用されており、令和7年度からは新たに保育園にも提供されることになった。将来を担う子供たちに食べてもらうことが誇りになり、アイガモ農法が組合員の生きがいにもなっている。



到着後のアイガモのヒナの様子（5月中旬）



電柵ネットを張る様子（5月中旬）



害虫駆除と除草作業をするアイガモ

〒699-5514 鹿足郡吉賀町立河内833
080-1912-2165 m.honda6@titan.ocn.ne.jp

いっばんしゃだんほうじんあまちょうかんこうきょうかい しましょく てらこや

一般社団法人海士町観光協会 島食の寺子屋

「その日を形にする」和食料理人学校が離島で地産地消

概要

- 安価な冷凍加工品が島外から島内飲食店に流入し、結果として島らしい食事が消滅しかけていた。また、高齢化が進むとともに飲食店の担い手不足も課題となっていた。そこで、島内産品の地域内循環促進が打開策であると定め、地産地消に特化した和食の料理学校「島食の寺子屋」を立上げ、食や人材に関する地域課題解決に取り組む。
- 1年間のカリキュラムで島外から受講生を呼び寄せ、授業料や家賃を原資に運営している。

成果

- 飲食店運営事業として、島内飲食店「離島キッチン海士」にて団体観光客に島内産食材のみを使った料理を提供し、島内産品の消費につなげている。卒業後に島内飲食店に就職するルールをすることにより、担い手不足解消に寄与している。
- 海士町内の学校給食に提供することで、学校給食の地産地消率向上と生徒との交流給食で食育に寄与している。



令和7年度1年間コース受講生



「離島キッチン海士」での実践授業



島内の学校給食での小中学生との交流

〒684-0404 隠岐郡海士町大字福井1365-5
08514-2-0101 tsunemitsu@oki-ama.org

あまちょうがっこうきゅうしょくきょうどうちょうりじょう

海士町学校給食共同調理場

みんなの想いをカタチにする学校給食

概要

- 産地偽装など食の安全性が重要視された平成14年頃、海士町では地場産物も含め、担い手不足による一次生産者の減少と「食」の問題が大きくなっていった。これを機に行政・生産者・栄養士・調理員など生産から消費まで、学校給食に関わる組織全体のチームづくりを進め、「地場産物で安心安全」「ふるさとの味」「思い出に残る給食」を提供し続けることに力を入れ始めた。
- 海士町産にこだわった「みんなの想いをカタチにする給食」で食材仕入れ町内産使用率12年連続県内No.1。

成果

- 学校給食と生産者の連携が進む。
- 毎日の地場産食材と生産者の紹介等を積み重ねることによりふるさとを想う気持ちを育む。
- 島内各事業所と連携し、地場産物を活用。積極的に魚介類を活用することで自給率が向上。
- 平成25年に町内産使用率74%で県内1位となり、その後も70%から80%代をキープしている。



食材会議で島内食材の現況を共有



生産者との交流給食、感謝状授与



海士産weekで地元産を積極的に使用

〒684-0403 隠岐郡海士町海士944
08514-2-1487 kususyoku@town.ama.shimane.jp

関連情報はこちら ▶



おき ちよくばいしょきょうどうくみあい いちば
隠岐ふるさと直売所協同組合（あんき市場）

安心・安全な隠岐産品をお届けする「あんき市場」～隠岐の島の暮らしを次世代へ繋ぐ～

概 要

- 平成22年に設立した協同組合（平成28年法人化）。隠岐諸島在住1次・2次・3次産業の個人及び団体160者で構成。
- 「あんき」という言葉は隠岐の方言で、「安心」「安全」「居心地が良い」などという意味がある。
- 離島にあって、小規模な生産者が個々で販売するには輸送費などが本土生産者と比較すると大きなハンディとなる。そこで1次・2次・3次産業生産者等が集まって販売場所を開設し島内外に販売することで地域活性化を図ることを目的に設立した。



あんき市場店舗入り口



あんき市場店内



島外での販売促進活動

成 果

- 設立時25名だった組合員数が令和6年には160者、販売額は102,261千円となり、地域活性化に貢献できている。
- 組合員の増員にも取り組み、U・Iターン新規就農者・新規漁業就業者や起業者のアンテナショップ的役割も果たしている。
- 隠岐の将来を担う生産者（組合員）や商品が多様化することで購買が活性化し「あんき市場」の魅力が高まり、国境離島である隠岐の島での生活が持続可能となる一助となっている。

〒685-0014 隠岐郡隠岐の島町西町八尾の一 48-11
 0851-22-8633 oki-ankiichiba@tea.ocn.ne.jp

関連情報はこちら ▶

